

## 日本レクリエーション協会課程認定校 関東甲信越ブロック研修会

高野 千春

日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校（全国341校）の平成27年度関東甲信越ブロック研修会（95校対象）は、平成28年2月11日に東京家政大学狭山キャンパスで実施された。本学は関東甲信越ブロック幹事校として大泉保育福祉専門学校と協力し、この研修会の企画・運営に当たった。

日本レクリエーション協会では、レクリエーションを以下のように捉えている。レクリエーションとは、人を元気づけること。元気は、生きる力。スポーツや仲間との交流など、さまざまな活動を通じて人を元気づける。生きていることに喜びを感じてもらう。そこで今回は「レクリエーションでこころとからだを動かそう！」をテーマに、2部構成で企画した。

第1部は、深沢アート研究所を主催する山添 joseph 勇氏をお招きし、「わごむの美のじかん」と題したワークショップを実施した。講師の山添氏は、1998年からこども造形のアイデア制作やワークショップの企画・実施する活動を始め、こども造形教室や美術館やアートイベントなどさまざまな現場で、毎日こどもと接しながら「こども」と「アート」と「つくる・発見・研究」について考えておられる美術家である。私の世代では輪ゴ

ムといえば「ゴム段」や「ゴム鉄砲」遊びが頭に浮かんでくるが、今回のワークショップは、世界各国の様々な輪ゴムを使い空間を自由に創造していくという、これまでに体験したことのないアートな世界だった。一人で黙々と輪ゴムを繋ぐ作業をしながら、ふと気がつく与其他の人とも和やかに絡み合っているという、静かで不思議な時間を共有する場となった。

第2部は「みんなと楽しく！友だちの輪」と題し、アメリカでアウトドア・レクリエーションを専門に学び、実際に活動されていた土井晶子先生に、身体を動かしながら周囲の人との距離を自然に縮めてしまうレクリエーションを紹介していただいた。「People to People」のアイスブレイキングの後、タッチラグビー簡易版を全員で行い、レクリエーション活動中のチームコミュニケーションや活動終了後の振り返りへの運び方を、参加者側の視点でも学ぶことができた。

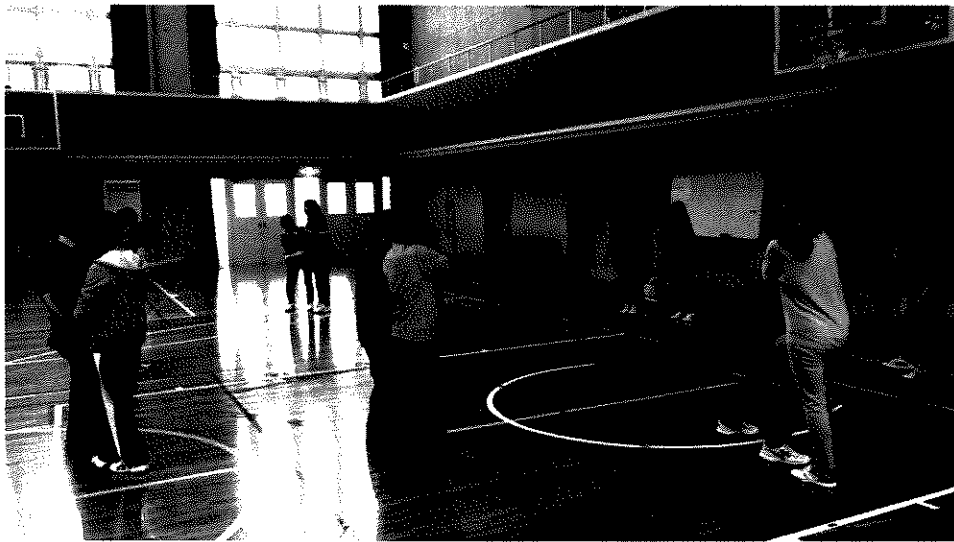
今回の研修会が、有資格者や保育・幼児教育機関関係者のリカレント、養成校で学ぶ学生達の実践力を向上させる機会になれば幸いである。さまざまな現場でレクリエーション活動が求められている今、課程認定校として、様々な視点からワークショップの機会を増やしていきたいと思う。



黙々と輪ゴムを繋ぐ



気づくとどこかで絡んでる…



People to People